

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3071201390		
法人名	社会福祉法人 皆楽園		
事業所名(ユニット名)	グループホームなごみ ①ユニット		
所在地	和歌山県岩出市水栖644-1		
自己評価作成日	令和6年1月18日	評価結果市町村受理日	令和6年3月27日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kai gokensaku.mhlw.go.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 和歌山県社会福祉協議会		
所在地	和歌山県和歌山市手平二丁目1-2		
訪問調査日	令和6年2月21日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

グループホームの理念【誰もが利用したいと思えるグループホーム、生き生きと笑顔で暮らす】を大切に、利用者様が安心して居心地良く過ごして頂けるグループホームを目指しています。ご利用者様に寄り添い楽しみのある日常生活を送って頂けるような支援を心掛けています。個々の疾患による状態、体調変化に早期発見し、ご家族様、主治医と連携を取り、早期対応に努めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

閑静な住宅街の一角に事業所がある。玄関先には季節の花を飾っている。2ユニットの横にある「なごみ庵」を活用しヨガや体操教室、認知症カフェを通じ地域との関わりを深めている。2ユニットの間にウッドデッキ風の中庭があり、草花を育てたり、おやつを楽しむ場所として使用している。コロナ禍でなかなか外出も行えなかったため、職員の意見を取り入れ「なごみ庵」で様々なイベントを開催している。会議や研修の議事録も整備されている。毎月、全職員の自己評価を実施し、必要に応じて面談も行っている。接遇に関しても半年に1度自己評価を行い、質の向上につなげている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらい 3. 家族の1/3くらい 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらい 3. 職員の1/3くらい 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外に行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらい 3. 家族等の1/3くらい 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	朝礼時に理念を唱和し、又ホール内に提示し、スタッフ全員が常に理念を意識してケアを実践出来るよう努めている。	開設当初、職員で作成した理念を事業所内に掲示し、周知している。事業所としての目標は、質の向上につなげるために毎年変更し、実践出来るよう努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	感染症防止の為、地域との交流は自粛している部分もあるが、訪問理美容の利用やかかりつけ医への定期健診は行っており、又、中学生の職場体験の受け入れも行っている。	令和5年5月以降、地域の方々を迎え、ヨガや体操を行っている。自治会に入会し、年に1回の溝掃除に職員が参加している。コロナ5類移行に伴い、地域向けの活動も再開している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議や認知症カフェへの参加をして頂き、取り組みの報告や認知症の方への支援について地域の方々に理解を深めて頂けるように努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2カ月に1回運営推進会議を開催し、事業所での活動報告と地域の方が高齢者介護について知識等、理解を深めて頂けるように様々な意見交換を行い、サービスの向上に努めている。	2カ月に1度、民生委員や包括支援センター職員が参加し開催されている。利用者は参加していないが、会議では運営状況報告を行い、認知症介護に関する意見交換も行われ、気づきの機会となっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議や電話のやり取りで活動報告を行ったり、分らない事は相談し協力関係を築けるように努めている。	市町村や包括支援センターには、適宜報告を行い、協力関係を築けるように努めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	事業所内で年2回以上研修し、身体拘束をしないケアについて学び実践に取り組んでいる。	玄関は、施錠しているが利用者が外出したい時は一緒に出かけている。オンラインや資料を活用し研修を開催している。年に2回の接遇チェックも全職員が行い、身体拘束のないケアに努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	事業所内で年2回以上研修し、高齢者虐待について学び、話し合い、防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	事業所内で年2回以上研修し、権利擁護について学ぶ機会を設けている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に契約書、重要事項について十分な説明を行い理解、納得を頂けている。又、変更事項がある時は必ず同意書を交わし納得して頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日頃の関りでご利用者の要望を聞き、ご家族の要望は電話や来居時に聞かせて頂き、又、毎月ご本人様の様子や医療等について報告しケアに繋げ対応できるように努めている。	コロナ禍で外出の機会が制限されていたことにより、家族から利用者の身体の状態について相談があったため、理学療法士の助言を受け、運動の機会を多くする事で対応している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	スタッフ個々の意見や提案を業務中や会議等で聞く機会を設け、業務の改善や取り組みに反映できるようにしている。	年2回職員面接を行い、意見聴取している。事故が起こった時は、事故検討会議を通じ、職員の意見を参考に改善に取り組んでいる。コロナ禍で開催出来なかった文化祭を再開し、「なごみ庵」を活用して神社参りや水族館風に館内をアレンジし、利用者の楽しみの機会をつくっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年2回の人事考査を行い、職員の意見や目標を聞き取り、向上心を持って働ける職場環境に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人外の研修を受ける機会を設け、又、事業所内の研修は各担当者を決め研修を行っている。毎月、自己評価を行い面談し、職員一人ひとりのケアの質の向上に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	毎月、グループホーム4事業所代表で研修を行い取り組みや支援について意見交換を行い、質の向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人の生活歴等を把握し、安心して過ごして頂けるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の意見や思いを聞き、不安な部分には寄り添い、ご家族との関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人の状態に合わせ、ご家族と相談し、意見を聞いた上でサービスを提供するよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人の生活歴や会話から得意な事や好きな事を探り、日常生活に取り入れ、他者や職員と行き、共に生活出来る関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご本人とご家族の関わりを大切にし、感染防止の為スクリーン越しではあるが面会して頂いたり、電話でお話して頂いたり、又、状態報告をこまめに行っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	感染防止の為、ドライブでの外出ではあるが馴染みの場所へ出かけたり、又、馴染みの方と電話で自由に連絡を取って頂いたり、面会して頂いたりしている。	多くの利用者は、各々の携帯電話を所有しているため、馴染みの方々とのつながりは継続できている。利用者の意向や状況に合わせて車で外出し、利用者の馴染みの場所に行けるよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一人ひとりの性格や思いを把握し、席替えやレクリエーション等を通して、ご利用者同士で会話や関わりを持てる場面作りをしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他の事業所に移られた後も、面会や電話で情報交換する等して、本人と家族が安心してサービスが受けられるように相談に応じている。		
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人の言動や言葉から思いや希望を聞いて日頃の支援に生かしている。困難な場合はご家族からも情報を得ている。	日々のケアを通じ、利用者の意向や生活状況を随時連絡ノートに記載し、情報共有している。自身の意向を伝えることが出来る利用者が多い。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	会話からご本人に聞いたり、面会時にご家族から聞き取り情報を得て、これまでの暮らしの把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	生活状況、一日の流れの記録や申し送り等でご本人の状態を把握し、その都度チームで共有している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケース会議では検討課題を密に話し合い、又、ご家族の意見も聞き取り介護計画に反映させている。状態変化時には介護計画を見直し作成している。	利用者からは日々の生活状況を通じて、また、家族からは電話や面会を行い、意向の把握に努めている。医師や看護師からも必要に応じ意見を確認し、計画書に反映させている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の生活状況の記録を個別に記録し、申し送りで職員に通達し、声かけしながら共有している。その情報をもとに実践や介護計画の見直しに生かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人様の状態に応じて日々のケアや過ごし方の支援を相談しながら行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍緩和に伴い、地域の中学生の職場体験の受け入れを行い地域交流に努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	以前より通われているかかりつけ医への受診、往診で入居前と変わらない医療を受けている。ご家族や職員共受診時の情報共有をしている。	基本的には、家族が付き添って通院している。訪問での診療の場合、かかりつけ医又は事業所が連携している医師により受診している。歯科は訪問診療で、眼科は通院している。急変時は、協力医療機関の医師が24時間体制で対応している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	法人内の診療所看護師と連携をとり、ご利用者の状態が変化した時等、情報を伝え相談しながら健康管理の支援をしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した際にはご利用者の日常の様子や食事状態などを病院関係者に情報提供し、入院中は状態や経過についてご家族や病院関係者に様子を伺い早期退院できるように支援している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期の際には早い段階からご家族や医師と相談している。身体的機能の低下に伴い事業所で出来るケアを説明し方針を共有し支援している。	入所時に重度化した時の説明・相談を行っている。状態悪化の場合は、同一法人にある特養入所も視野に入れ、重度化する前に家族に相談している。事業所での看取りは行っていない。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	法人内研修やオンライン研修に参加し、ホーム内での研修も行い、急変時や事故発生時に対応できるよう努めている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練や消火器の使い方、避難経路の確認を行っている。緊急時の連絡体制により応援要請し早期対応できるように取り組んでいる。又、DVD視聴による研修も行っている。災害対策物品も備蓄している。	火災を想定し、日中と夜間に分けて訓練を行っている。食糧の備蓄や、停電時のカセットコンロや毛布等が用意されている。	火災訓練だけではなく、地震やライフラインが休止した時など、あらゆる被災状況を想定した訓練を行うことで、非常災害時も継続運営できる事業所作りを期待する。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個々の思いに寄り添いながら尊重し、プライバシーに配慮した声かけや対応をしている。	毎月自己評価を行い、プライバシー保護に努めている。書類は、鍵付きの書庫に保管してる。各居室にトイレがあり、排泄の失敗等が起こった場合でも、利用者に配慮した対応を行っている。利用者に対しては、名前で声かけをしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定できる場面を作ってご利用者の思い希望に添って取り組んで頂いている。希望の表出が難しい方には、時間をかけて雰囲気作りをして働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個人が自由に自身のペースを保ちながら暮らせるように支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者の好みに配慮して季節に合った身だしなみやおしゃれが出来るように支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	行事食や誕生日会では、旬の食材や好みのメニューを考え提供している。利用者と一緒に食器洗浄や食器、お盆の片付けをしている。	誕生日会などのイベントでは、利用者の意向に合わせた食事が提供されている。利用者も一緒に、おやつ作りや食事の盛り付けなどを行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分量は記録し一人ひとりの摂取量の把握を行っている。食事摂取量の少ない方に対しては栄養補助の飲み物の提供など医師や家族と相談しながら行っている。又、好きな果物の補食も行っている。嚥下状態が低下されている利用者には刻み食も対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔内の清潔の重要性を全職員が認識している。利用者個々に合った口腔ケアを行っている。入れ歯の方には入れ歯洗浄剤で清潔保持に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	日中夜間を通し個々の排泄パターンを把握し、サインを見逃さずトイレ誘導を行っている。失禁を減らしパットの使用量を減らせるように努めている。ひとりで出来る事はして頂き自立にむけた支援を行っている。	リハビリパンツと布の下着を着用する利用者は半数ずつぐらいであり、失禁していてもトイレ誘導は行うようにしている。リハビリパンツから布の下着に戻せた利用者もおり、排泄の自立にむけた支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個々の排便チェックを行い適切に対応している。水分摂取、乳製品を摂り自力排便ができるように働きかけている。状態に応じて緩下剤や整腸剤で調整している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	体調やバイタルの確認をして入浴して頂いている。又、個々の状態に対応した入浴介助を行っている。入浴日以外は清拭を行い清潔保持に努めている。	入浴を拒否する利用者は無く、毎日午後から入浴を行っている。同性介助については、利用者の意向に合わせて対応している。季節に応じてゆず湯にしたり、入浴剤を使用して入浴の楽しみにつなげている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の睡眠状態を把握し、日中少し横になって頂いたり、興味のあるレクリエーションや会話をし、夜間安心して眠れる様取り組んでいる。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	飲み忘れや重複がない様、日付を記入し服薬表を用い職員間で再確認している。変更時は申し送り帳に記入し共有している。錠剤が服薬できない利用者には粉にし、とろみに混ぜて服薬して頂いている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の出来る事を把握し、声かけしながら一緒に家事仕事を行える様取り組んでいる。誕生日や行事等、食べたいメニューを聞き提供している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	隣接している施設の催し物の見学やドライブを楽しんで頂いたり、中庭や裏庭を散歩し草花に触れて頂く等し、和やかな時間を持って頂ける様努めている。	2ユニットの間に庭園があり、利用者は草花の水やりに出ている。利用者の希望に合わせて散歩をしている。事業所内で、買い物体験を楽しめるような取り組みも行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族の許可を得て希望に応じて所持して頂いているが、感染症予防の為、買い物支援は出来ていないが、グループホームが開催しているお店屋さんで疑似紙幣を使用し、買い物を楽しんで頂いている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族や友人と電話でお話できるよう支援している。年賀状や暑中見舞いを書いて、ご家族様に送っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	施設内は明るくし、塗り絵や工作などで季節感を出すように心掛けている。室温調整を行い居心地良く過ごせるよう工夫している。	リビングは広く造られており、利用者はその部屋のテーブルで食事を摂っている。ソファ周辺に集まり、レクリエーションなども行っている。畳の間もあり、くつろげる空間で気分転換もできる。季節の飾り物も掲示されており、遮光も適度な中、静かな環境で過ごすことができるよう工夫されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールにはソファを置き気の合った者同士が気楽に話せるよう環境作りを行っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には本人や家族の意向を取り入れ、使い慣れた物や好みの物を持参し思い思いの居室で居心地よく過ごせるよう工夫している。	トイレは居室内にあり、クローゼットも備え付けられている。ベッドは事業所で用意されたものを使用している。家庭で使用していたテレビや仏壇、ドレッサーなどを持参し、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	施設内は手すりなどを設置し、安全に生活できるよう配慮している。個々の身体能力に応じた対応をするよう職員も常に心掛けている。		